



第6回OFMアンダー10の兄弟たちの幕屋の集会、アシジ 2026 全世界の若い兄弟たちが兄弟愛のしるしのもとに集う



WWW.OFM.ORG

7月4日から12日にかけて、アシジにて「第6回 OFM アンダー10 OFM 幕屋の集会」が開催された。五大大陸から集まった、荘厳誓願宣立後0年未満の135名の兄弟たちがポルチウンクラに集まり、総本部とともに、傾聴と識別、そして国際的な兄弟愛の時間を過ごした。

「聖フランシスコの帰天800周年」を記念する記念祭・聖年の文脈において、この幕屋の集会は、国際的な兄弟愛を具体的に生き、現代の課題を識別し、現代世界におけるフランシスカンの宣教への献身を再燃させるための特権的な場となった。

この集いの目的の中で、世界の様々な地域から兄弟たちを集め、国境や言語、文化的背景を超えた兄弟愛の美しさを体験するという目的は確実に達成された。これにより、フランシスカンの宣教の召命を再発見し、世界の周縁における平和の促進と連帯の現存を推し進めることが

可能となる。シノドススタイルで行われた集いと、共有された識別から、各管区、諸協議会、そして2027年の総集会に提案するための具体的な提案が生まれた。

すべての情報を読む：[special section of the website](#)

最終メッセージを読む：
[Italiano](#) - [English](#) - [Español](#)

写真を見る [Flickr](#)

動画を見る [Youtube](#)



7月22日に『FRATERNITAS』

アンダー10の兄弟たちの幕屋の集会の特別号が発行される予定。



Government of the Order

総長ウクライナへ、 兄弟愛と希望の訪問 人々への寄り添いと、会における交わり



WWW.OFM.ORG

ここ数日、ウクライナのフランシスカン共同体は、深い恵みと慰めの時間を体験した。小さき兄弟会の総長である総長の兄弟Massimo Fusarelliが、総理事の兄弟Konrad Grzegorz Cholewa、および「小さき兄弟会フラテルニタス財団」の責任者である兄弟Franco Mirriとともに、同国を公式訪問した。この旅は、ウクライナ国民のための祈りと絶え間ない平和への願いの中に結ばれた、全世界の兄弟会全体からの、具体的で目



に見える連帯と寄り添いのしるしとなった。訪問の最初のステージは、スドヴァ・ヴィシュニャの修道院で行われた。

ここで兄弟たちは、地元の共同体との出会いの喜びを分かち合ったほか、小教区の困窮しているいくつかの家族を訪問し、物質的および霊的慰めを届けた。

その後、一行はジトミールの修道院へと向かい、そこで「大天使聖ミカエル管区」の兄弟たちとの兄弟的対話と集会のひとつが持たれた。その後、小教区教会であるドゥクラの聖ヨハネ教会において、同管区の兄弟たちと共に、厳かな感謝の祭儀が捧げられた。聖ミカエル・ミサとそれに続く兄弟的昼食のひとつの後、極めて重要な出来事が行われた。総長の兄弟が、修道院に隣接する「聖フランシスコの家」を祝福した。これは社会・教会的に大きな重要性を持つ施設であり、近い将来、退役軍人とその家族のためのリハビリテーション・センター、キリスト教徒の学生寮、そしてフランシスカン青年のための司牧センターを収容する予定である。

旅はシャルホロドへと続き、地元の修道院の活動を間近で視察した。厳かな聖なる典礼の挙行の後、兄弟たちは、恒例の食料パック配布の場でウクライナ東部からの難民や国内避難民と出会って対話し、彼らの劇的証言に耳を傾けた。また、児童センター「ナザレ」への訪問も特に感動的であり、子どもたちがローマからの来客を温かく、喜びをもって歓迎してくれた。

次のステージへの途上、総本部の兄弟たちはフシヤティンに立ち寄り、地元の共同体を訪問しました。この機会に、兄弟Mykhailo Bahinskyiの入念で情熱的指導のもとで進められている、古代のベルナルディーノ修道院複合体と聖アントニオ教会の修復工事の状況

INDEX

第6回OFMアンダー10の兄弟たちの幕屋の集会、アジジ 2026.....	1
総長ウクライナへ、兄弟愛と希望の訪問	2
総本部の予定	3
総長、ポーランドのオルシュティン訪問	3
ドイツおよびオランダ管区の合同理事会	4
中間管区会議	5
マルケの聖ジェームズ管区(イタリア)、管区会議.....	6
エクアドルにおける幕屋の集会.....	6
第6回アジア・オセアニア地域のJPICアニメーター会合閉幕.....	8
希望はチリウン川を流れる：ジャカルタにおけるフランシスコ帰天の祝祭... 9	
修練期の養成担当者たちへの書簡	11
インドネシアにおけるFCAO集会.....	11
CEM(南ヨーロッパ諸管区協議会)福音宣教事務局長会議M	13
スーダンおよび南スーダンの聖フランシスコ宣教地区への訪問	14
Life in the Order	15
ベネズエラの兄弟たちに対する寄り添いと支援を	16

を視察することができた。訪問はテルノーピリで締めくくられ、総長の兄弟と同行者たちは、ウクライナ・ギリシャ・カトリック教会のビザンチン典礼のフランシスカン兄弟たちと出会った。

極めて高いエキュメニカルおよび兄弟的価値を持つ瞬間となったのは、ローマからの来客がギリシャ・カトリックの兄弟たちと共に捧げた、ビザンチン典礼による厳かな聖祭（

ディヴィナ・リトゥルジア）だった。この共通の祈りは、典礼様式の違いを超えて唯一の祭壇の周りに集うフランシスカンのカリスマの豊かさを改めて証しし、この試練の時代にあって神の民に仕え続けるための希望と新たな活力を注入するものとなった。

兄弟Cristian Kryvakivskyy, OFMによる寄稿

総本部の予定



- ☑ 7月14日から18日にかけて、総本部において「研修と研究のための国際評議会」が開催され、7月15日には総長の兄弟 Massimo Fusarelliも出席予定。
- ☑ 7月22日、総長の兄弟Massimoは、在世会の「Missionaries of Royaltyの臨時総会にオンラインで参加する予定。
- ☑ 7月24日まで、総本部において「テンポ・フォルテ (Tempo Forte)」が開催。
- ☑ 7月25日から30日まで、総長と理事会は、ザコ

パネ（ポーランド）にて年次評価を行う予定。

- ☑ 8月1日から6日まで、総長の兄弟 Massimo はアッシジに滞在する予定。8月1日にはサンタ・マリア・デリ・アンジェリにて「アッシジの免償 2026」の開幕の厳かなミサを執り行います。2日には「アッシジの免償の祝日」を祝い、到着する「ユース・フランシスカン行進の参加者を迎える。3日から6日にかけては、ヨーロッパの青年の集い「GO! Franciscan Youth Meeting」に参加する予定。このイベントには8月6日に教皇レオ14世も臨席される予定。

総長、ポーランドのオルシュティン訪問 同地域における小さき兄弟会現存100周年を祝う



WWW.OFM.ORG

ポーランドのオルシュティン、ザトルツェ地区における小さき兄弟会現存100周年の祝賀の一環として、小さき兄弟会の兄弟たちは2026年6月27日から29日にかけて、同地域の総理事である兄弟Konrad Cholewa および小さき兄弟会フラテルニタス財団責任者の兄弟Franco Mirr を伴った総長の兄弟Massimo Fusarelliを迎えた。訪問の中心となったのは、6月28日（日）に「キリストの王教会」で行われた、総長の兄弟が司式した荘厳なミサである。説教の冒頭で、総長の兄弟Massimoは、聖年とは単に過去の出来事を思い起こすことではなく、何よりも神が共同体の生活の中に今日も行い続けておられる業に対して感謝を捧げる時間であると強調した。「小教区の100年間は、遠くから思い起こすような記念日ではありません。今日、述べるべき『ありがとう』なのだ。受け入れられた福音、割かれたパン、エウカリスティアと愛徳、そして1世紀にわたり神によって伴われてきた人々

に対してです」。主日の福音に言及しながら、兄弟たちへの日々の奉仕を通じて、自らの命をキリストに捧げることを恐れないう信徒たちを呼びかけた。受け入れ、もてなし、そして最も小さく最も弱い人々に寄り添うことは、フランシスカンのカリスマと、生きている信仰の具体的表現であると想起させた。説教を締めくくりにあたり、総長の兄弟Massimoは共同体に、今後の歩みのプログラムとなり得る言葉を残した。「あなたがたが生きている愛徳を恐れてはなりません。ここに福音の真理が輝き、肉となるのです」。式典の終了後、総長の兄弟は新しい「家族カウンセリング・センター」を祝福し、心理学者や心理療法士のチームと面会し、オルシュティンの家族や住民の奉仕となるこの新しい活動を間近で視察した。続いて、小さき兄弟会フラテルニタス財団の支援によって最近修復された、社会活動のためのスペースを訪問した。新しくなった環境では、修道院で活動

する多くの共同体と共に兄弟たちが推進する、教育、研修、および愛徳活動が現在行われている。この訪問はザトルツェの「家族フェスティバル」と重なり、総長の兄弟によって公式に開幕された。フランシスカンらしい簡素さと本物の喜びの雰囲気の中で、小教区民や地区の住民、ボランティアたちと出会い、お祝いのひとときを分かち合い、自然な様子でダンスにも参加した。一日の締めくくりには、アッシジのフランシスコの生涯と霊性にインスピレーションを得た野外劇『神の道化師 (Il Giullare di Dio)』の上演が行われた。この表現は、アッシジの貧者のメッセージが今日でもいかに現代的であり、福音、平和、そして兄弟愛に基づいた世界を構築することを励まし続けているかを思い起こさせた。総長の兄弟の訪問は、ザトルツェにおけるフランシスカン現存100周年祝賀の最も意義深い瞬間の一つとなった。それは兄弟的交わり、新たな宣教への熱意、そして現代の課題に勇気をもって応えながら、祈り、兄弟



愛、そしてすべての人への奉仕を通して福音を宣べ伝え続けるための励ましの機会となった。

ドイツおよびオランダ管区の 合同理事会

2026年6月25日・26日、ス・ヘルトーヘンボス(オランダ)



WWW.OFM.ORG

2026年6月25日と26日、「聖エリザベト管区(ドイツ)」と「ゴルクムの聖なる殉教者管区(オランダおよびフランダース)」の理事会がス・ヘルトーヘンボス(オランダ)で集い、北西ヨーロッパにおけるフランシスカンの現存に関する課題と、オランダ・フランダースとドイツの将来の協力体制の構造について議論し、意見を交換した。

6月26日、両管区の管区長および理事たち、アルプス地域

協議会(COTAF)担当の総理事である兄弟Albert Schmuckiを伴った総長の兄弟Massimo Fusarelliが合流し、会談に参加した。その発言の中で、総長の兄弟は、フランシスカンのカリスマを歴史的に発展してきた表現形態から区別することの重要性を明確にし、大修道院や大きな構造物の時代はもはや終焉を迎えつつあることを想起させ、それゆえに、カリスマを今日、そして近い将来に生きるためにどのような形態が適切である

かを共に探求するための、霊的識別のプロセスが必要であると述べた。信頼に満ちた建設的対話の中で、両管区の理事会のメンバーは、総本部の代表者たちと共に、それぞれの管区の課題と見通しを検討し、共有された未来へ向けて具体的一步を踏み出すことに合意した。この観点から、両管区の管区長と理事たちは、両管区の管区会議が開催される2028年に至るまで様々な識別のステージと両管区間の歩みを設定した。



Chapters



パドヴァの聖アントニオ管区（フィリピン） 中間管区会議

2026年6月22～26日、セブ、ミングラニリヤ



WWW.OFM.ORG

2026年6月22日から26日まで、「フィリピンパドヴァの聖アントニオ管区」の兄弟たちが中間管区会議を執り行うためにセブのミングラニリヤにある引退者共同体に集まった。ビサヤおよびミンダナオから集まった兄弟たちは、管区会議のテーマ「新たに始めよう：帰天から変容へ」に導かれ、祈り、識別、兄弟愛、そして意思決定のプロセスの中で再会した。



5日間に、及んだ管区会議は、6月22日に兄弟 Arturo Daquilanea, OFMが司式する荘厳な開幕の典礼で始まった。デニス・アバリエントス教授が、フィリピンの現在の現実に関する国内状況の概況を提示した。兄弟Renee C. Dean, OFMが聖霊の助けを求めるミサを執り行い、それに続いて、識別を促すためにカプチン（OFMCap）の兄弟Joel de Jesusが指導する祈りの静修の時間が設けられた。

6月23日、兄弟Prisco Cajes, OFM が感謝の祭儀を司式し、自身の40年間にわたる忠実な奉仕を思い起こした。管区の生活と使命に関する内省が続けられた。

6月24日、兄弟たちは兄弟Jaime Raul Yarkit, OFM の金祝を祝った。午後には、小グル

ープでの分かち合いが管区の将来と宣教に焦点を当てて行われ、スポーツ活動とマリアを称えるフランシスカン・クラウンの信心で締めくくられた。

4日目は、兄弟Dante Barcelona, OFMが自身の銀祝を亡くなった兄弟たちのための追悼ミサと共に祝い、彼らの忠実な奉仕を称えた。最終日は、兄弟Neil Badillo, OFMが「感謝のミサ（Misa de Gracias）」を司式し、司祭叙階40周年を迎えた兄弟Noniel Pe, OFMが説教した。管区会議は決議の承認をもって終了し、祈りと対話の日々を閉じた。午後、兄弟たちは新しい管区理事会の選挙のために、アッシジの聖フランシスコ聖堂に集まった。

管区会議は、第1理事に兄弟Raymond Osok, OFM、第2理事に兄弟Mark Joy Basalajes, OFM、第3理事に兄弟Arturo Daquilanea, OFM、そして第4理事に兄弟Daniel Borromeo, OFM を選出した。管区会議は夕方に荘厳な晩の祈りの挙行をもって終了し、その中で、長年神と教会へ忠実に奉仕したジュビリーを迎えた兄弟たちが称えられた。

管区長が公式に管区会議を閉会、祈り、識別、そして兄弟愛の有意義な集会の終わりを告げた。管区会議の閉会后、共同体は「ジュビリーを迎えた兄弟たちの夕べ」を共に祝い彼らの兄弟会と教会への忠実、忍耐、そして献身的奉仕の証しを称える喜びの集いとなった。

「新たに始めよう：帰天から変容へ」というテーマにしっかりと係留されたこの中間管区会議は、管区にとって聖なる刷新の瞬間となった。祈り、対話、識別、そして兄弟愛を通して、兄弟たちはフランシスカン召命への献身を再確認し、パドヴァの聖アントニオ管区（フィリピン）の未来のための刷新されたヴィジョンを受け入れた。

兄弟Kent Bryant M. Montes, OFMによる寄稿

マルケの聖ジェームズ管区(イタリア)、 管区会議

2026年4月および6月



WWW.OFM.ORG

マルケの聖ジェームズ管区(イタリア)は、2つの異なる時期に行われた2026年管区会議の作業を完了し、自らの将来の歩みのためのガイドラインを策定した。

管区会議の第1フェーズは、2026年4月13日から17日にかけてロレート「テッラ・デイ・フィオレッティ」ハウスにて開幕した。このセッションでは、再任された管区長の兄弟Simone Giampieriと副管区長の兄弟Luciano

Genga の就任が行われ、続いて4名の新しい管区理事である兄弟Ferdinando Campana、兄弟Lorenzo Del Bene、兄弟Rudy Fraticelli、兄弟Andrea Ricattiの選挙が行われた。それらの日々の中で、管区会議の参加者たちは『討議要綱 (Instrumentum Laboris)』を深く分析し、共同体の大きな課題に焦点を当てた。

第2セッションは、2026年6月14日から20日にかけてサンマリノ共和国にある「サン・ジ

ュゼッペ」黙想の家にて行われた。会議の中心となったのは、福音宣教(人々への宣教および諸国民への宣教「アド・ジェンテス」による)から、青年・大学生・家族の司牧のケア、さらには管区の様々な分野における協力に至るまでの、フランシスカンの使命の柱だった。

管区会議は、今後数年間の管区の行動を導くことになる優先課題と最終文書の承認をもって終了した。



Chapters of Mats

エクアドルにおける幕屋の集会

2026年6月23日～25日、アソゲス



WWW.OFM.ORG

2026年6月23日から25日にかけて、エクアドルのアソゲス市にある「雲の聖母」聖堂において、キトの聖フランシスコ管区が、アッシジの聖フランシスコ帰天800周年の枠組みの中で「幕屋の集会」を挙行了。この集いは管区長の兄弟Ángel Montoyaによって招集され、ラテンアメリカ担当の総理事である兄弟César

Külkampも参加した。

荘厳誓願の兄弟85名、有期誓願の兄弟15名、修練者3名、志願者6名がこの集いに参加し、これらの日々を兄弟愛、感謝に満ちた記憶、そして召命の刷新の時間として過ごした。集会のテーマは「私たちの生活と使命の



刷新。本質への回帰：生まれ変わるために自らを脱ぎ捨てる」であり、これは「私たちの主イエス・キリストの聖なる福音を遵守する」という会則にインスピレーションを得たものである。この見通しのもとで、兄弟たちは、管区が刷新された希望をもって新しく始め、フランシスカンの召命の本質へと立ち戻り、今日のエクアドルにおいてより忠実に福音を生きるための道を共に識別するようにという総長からの呼びかけを受け入れた。

これらは祈り、内省、対話、そして兄弟的交わりの日々だった。内省は、聖フランシスコの生涯、2025年の管区会議への総長の書簡、そしてそれに続いて管区のすべての兄弟たちに宛てられた書簡から生み出された。これらのテキストは、現在の課題に対してより福音的で首尾一貫した答えを模索しながら、フランシスカンの生活の現在と未来を穏やかに見つめることに貢献した。前回の管区会議から10ヶ月が経過し、再び集まる喜びは兄弟愛の絆を強めることに貢献した。

簡素で兄弟的雰囲気の中で、兄弟たちは自らの経験を分かち合い、様々な視点に耳を傾け、より大きな兄弟愛、平和、そして和解を必要としている社会における小さき兄弟たちの使命について内省した。集いの方法論は、傾聴、識別、決定と

いう3つの態度によって特徴づけられた。

この歩みは、以前にそれぞれの共同体においてすでに始まっており、そこでは兄弟たちが聖フランシスコの2つの遺言、教皇グレゴリオ9世の教書『ミラ・チルカ・ノス』、兄弟エリアの回勅、そして文書『キリストの愛が私たちを一つに集めた (Congregavit nos in unum Christi amor) 』について内省を行っていた。したがって、この集会は単なる管区の集いであるだけでなく、共同体の傾聴プロセスであり、神の御旨を共に探求することの表現でもあった。



最も意義深かった瞬間の一つはランタンの点火であり、その中で兄弟たちは共に修道誓願を刷新した。この同じ刷新の精神において、各兄弟はフランシスカンの生活の源泉への回帰のしるしとして、裁可された会則とセラフィムの師父聖フランシスコの遺言の記念コピーを受け取った。

幕屋の集会の終了日にあたり、兄弟たちは、聖フランシスコの模範に倣い、仕え、より大きな忠実をもって聖なる福音を生き、より兄弟的で福音的、そして宣教的管区を構築し続けたいという刷新された願いを抱いて、それぞれの共同体へと帰った。



Animation of the Order

第6回アジア・オセアニア地域 正義と平和・被造物の保全アニメーター会合閉幕 2026年6月22～27日、ジャカルタ(インドネシア)



WWW.OFM.ORG

インドネシアのジャカルタにおいて、第6回アジア地域フランシスカン正義と平和・被造物の保全アニメーター大陸会合が閉幕した。この会合の目的は、「人々に配慮し、被造物を保全していく」というテーマのもとで、同地域における正義と平和・被造物の保全の活動を評価し、考察していくことであった。さらに、正義と平和・被造物の保全のアニメーターたちが、フランシスカンの証人として、アジアにおける具体的責務を通して、どのように正義と平和・被造物の保全の価値を実践していくかについても議論が行なわれた。

南アジアおよびオーストラリア・オセアニア諸管区協議会および東アジア諸管区協議会の報告によれば、どちらの諸管区協議会も、アジアで兄弟たちが従事しているさまざまな奉仕職において、正義と平和・被造物の保全の価値の普及に努めていることがうかがえる。そのなかには、環境司牧のための取り組み、人間の尊厳と健全な環境への権利の擁護、さまざまな人たちの対話、自然災害や暴力の被害者たちに対する連帯、難民や避難民への支援などが含まれている。それと同時に、兄弟たちは、採取経済、武力紛争、強制移住、環境破壊、人身売買およびこれらに関連したその他の問題など、多くの課題に直面し続けている。



アジアの現状について検討した参加者たちは、それらが単に時のしるしであるばかりでなく、フランシスカン員たちが対応していくよう求められ

ている不確実な未来を示すものだと考えている。そのため、こうした現実をより深く理解し、効果的に対処していくためには、新たなアプローチが必要となる。フランシスカン・インターナショナルからの代表の一人Budi Tjahjonoは、先住民族や紛争の被害者の権利、健全な環境への権利を地域レベル、国レベル、諸管区協議会レベル、国際レベルで擁護していくための実践的指針を示した。兄弟Mikhaelは、インドネシアにおける環境司牧奉仕職の先駆者としての長年にわたる経験から、さまざまな環境司牧プロジェクトを始めていくよう兄弟たちを励ました。また、Hendro Sangkoyoは、南アジアにおける採取主義と、同地域において多国籍企業が与えている影響について、包括的発表を行なった。

アジアの現実、フランシスカン員たちに対し、こうした現実に対応し、協力していくよう招いている。兄弟Derrick Yapは、原点、すなわちフランシスカンの霊性やカリスマに回帰するとともに、人間の尊厳とそれが養成に及ぼす影響について扱った教皇レオ14世の新しい回勅『マニフィカ・フマニタス (Magnifica Humanitas)』からヒントを得ながら、参加者たちを養成にまつわる考察へと導いた。兄弟Lino Gregorio Redobladoは、とくにアシジの聖フランシスコの帰天800周年のこの機会に、参加者たちが「過越の」人となって、希望の道具となるよう励ました。最後に、兄弟Peter Betoは、武力紛争、人権侵害、そして極度の貧困を目の当たりにすることとなった、ミャンマーでの宣教師としての経験を分かち合った。そして、こうした現実と直面したとき、人々はしばしば希望を失い、無力に感じてしまうという事実について考察した。平和を築き、対話を重ね、難民を支援していく必要性を認識したとしても、依然として課題は残されている。それは、「私たちフランシスカン員に何ができるのか」ということである。

参加者たちは、会合の冒頭に兄弟Agustinus Lorensius Ngameが行なった「正義と平和・被造物の保全は単なるプログラムではなく、生活様式そのものです」という指摘や、副総長の兄弟Ignacio Cejaが「正義と平和・被造物の保全は福音的生活を構成する次元であり、これを通して兄弟

たちは重要な存在であり続け、預言的代替案を提示していくのです」と強調した点について考察した後で、宣言を採択し、決意と共通の責務で一致した。

最後に、第6回大陸会合は、チリウンの共同体への訪問で幕を閉じた。そこでは、聖フランシスコの像が祝別され、川に魚が放流され、植樹も行なわれた。諸宗教対話に参加した若者たちや、ジャカルタのフランシスコ家族の正義と平和・被造物の保全のアニメーターたちの間で分かち合われた数多くのメッセージのなかから、あるメッセージが明確なかたちで浮かび上がってきた。それ

は、フランシスコ員たちは、被造物と人々に対する配慮において、最前線に立たなければならないが、この任務において自分たちは一人ではないと信じているということである。環境危機は最大の懸念事項の一つであるが、この問題には、小さき兄弟会の正義と平和・被造物の保全担当室だけでなく、インドネシアのカトリック信者、プロテスタント信者、イスラーム教徒、ヒンドゥー教徒、仏教徒、儒家など、異なる宗教的伝統の若者たちによる諸宗教対話も通して、取り組んでいこうとしているのである。

希望はチリウン川を流れる： ジャカルタにおけるフランシスコ帰天の祝祭

被造物の保全のための若者たちの諸宗教対話：
インドネシアの正義と平和・被造物の保全のイベント



WWW.OFM.ORG



2026年6月27日、チリウン川は、その水に刻まれた深い歴史とは裏腹に、穏やかに流れていた。川の流れは、まるで緑がジャカルタのこの一角を離れることを拒んでいるかのような、生い茂る植生の間をゆっくりと進んでいく。何十年にもわたる汚染、都市化、放置の歴史など、誰にも想像つかなかったことだろう。この川は、もっとも困難な美德——傷つけられた後でも、いのちを与え続けること——を学んでいた。川岸の空は、午前8時から雲で覆われていた。そよ風が吹いていたおかげで、30度という気温と熱帯特有の湿気はしのぎやすいものとなっていた。すべてが緑に包まれたその場所では、フランシスコ的質素さと素朴さが感じられた。視線をどちらに向けても、被造物には穏やかな力がみなぎ

っているように見えた。

1時間後、およそ300人が、ムスリムの小さなコミュニティもあるこの川岸に集まった。若い仏教徒、プロテスタント信者、イスラーム教徒、ヒンドゥー教徒、儒家、そしてカトリック信者がいた。誰も、他の誰かを説得するために来たわけではなかった。皆がこの場所にいたのは、もはや「資源」と呼ばれることに耐えられなくなった大地の叫びに耳を傾けるためだった。実際、この地球は私たちの共通の家なのである。

開会式では、アジア・オセアニア地域正義と平和・被造物の保全大陸会議に参加していたすべての兄弟たちがステージに招かれた。

一人ひとりに小さな鳥が手渡された。短いカウントダウンの後、小鳥たちは一斉に放たれた。この行為は、自由と兄弟性、そして一つの人類家族として被造物を保全していくという共通の願いを象徴するものであった。

小鳥の一斉放鳥は、「環境保全のための若者による諸宗教対話」というこの会合のテーマを完全に具体的に示す行動で、インドネシアの正義と平和・被造物の保全事務局が、第6回アジア・オセアニア地域正義と平和・被造物の保全大陸会合の閉会イベントとして企画した。午前のプログラムがどんどん進行していく。それぞれの宗教的伝統を代表する若者たちが次々とステージに上がる姿は、勇気づけられる光景であった。どの詩や音楽のパフォーマンスも、どのあかしも、地球は搾取の対象ではなく、私たちが受け取った賜物であり、人類に託された責任であることを思い出させてくれた。そしてそれは、単なる諸宗教対話にとどまらず、分断に慣れきってしまった人類を被造物によって再び一つに結びつけることが可能であるという確信に基づく、希望の対話でもあった。被造物の保全は、歌や沈黙、言葉を通して、何世紀にもわたって分断されていたものを結び合わせることでできる言語となったのである。

参加者たちは、正午に、祝別式のため、川岸の聖フランシスコの像が設置された場所へと向かった。そこでは、さまざまな宗派の代表者たちが集まり、感謝と被造物に対する責務を分かち合う行為として、意義深いエキュメニカルな祈りをささげた。像の祝別式は、フィリピンの聖ペドロ・パウティスタ管区の管区長であり、東アジア諸管区協議会の会長も務める兄弟Lino Gregorio Redoblado (OFM) が司式した。また、希望と自然の回復のしるしとして植樹されることになっている木々も祝別された。さらに、数時間後に川に放流される予定の魚たちも祝福を受けた。聖フランシスコの像の前で祈りがささげられた後、希望と自然の再生の象徴として植樹が行なわれた。その後、昼食会には、さまざまな信仰やキリスト教の伝統をもつ人々が集まった。これらの食卓は、その場を動くことなしに対話の場となった。参加者たちはそこで、相互の尊重と傾聴の雰囲気の中に経験を分かち合い、総合的エコロジーの課題について考察し、被造物の保全こそが、宗教間の出会いと協力をもたらすもっとも実り豊かな言語の一つであることを発見した。グループワークの終了後、参加者たちは小型のボートに乗り込み、川の一部区間を航行した。

この行程では、チリウン川を間近に見ること

ができた。川の水は、長年にわたって蓄積されてきた汚染やごみの影響をなおも残しているが、同時に、川を再生させようとする地域社会の数多くの努力の痕跡も感じられた。道中では、さまざまな清掃活動、とくに生態系に悪影響を与え続けているプラスチックやその他のごみの除去作業を観察することができた。

航行の途中、先ほど祝福された魚の象徴的放流が行なわれた。袋がゆっくりと開かれ、何百匹もの小魚が川へと戻っていった。これは、長い間荒廃が支配していた場所にいのちを取り戻すという希望と責務のしるしであった。会合の開催場所に戻った後で、各ワーキンググループがまとめた結論の発表が始まった。発表の合間には、正義と平和・被造物の保全のアニメーションにたずさわるフランシスカン家族の修道女たちが、振り付けを交えた歌を披露した。数分の間、対話の焦点は議論から美へと移った。数時間にわたって雲が支配的であった空がようやく晴れ、午後の日差しが植物の鮮やかな緑を照らし、思いもしなかった色彩に彩られた風景を生み出した。自然は、その調和によって、この一日の間に蒔かれた配慮と希望の行動に答えてくれた。

参加者たちは、会合の閉会式の前に、公式記念写真撮影のために集まった。これは、異なる信仰をもつ人々が被造物の保全を支援するためにともに歩んだこの会合の記憶を将来に伝えるための記念となるものである。その少し後で、伝統舞踊が披露され、会合は幕を閉じた。開催地のコミュニティは、この舞踊を通して、自らの文化の豊かさと温かいもてなしの心をいま一度表現した。

チリウン川の流れがジャカルタの中心部へと向かって続いていく一方で、この旅をともに分かち合った人々のなかでも、希望は流れ続けていく。植樹されたばかりの木々、川に戻った魚たち、そして異なる信仰をもつ人々との対話は、すべてが失われてしまったかのように見える場所でも、いのちは常に再生する方法を見つけるということを思い出させてくれた。おそらく、ジャカルタで経験した真のフランシスコの帰天は、被造物の保全とは、信仰の光においては、世界の傷跡の上にもいのちが花開くのを宣言することでもある、という発見だったのだろう。

兄弟Daniel Rodríguez Blanco (OFM)
総本部JIPC（義と平和・被造物の保全）委員長



WWW.OFM.ORG

修練期の養成担当者たちへの書簡



修練期の養成担当者たちに宛てられた、「研修と研究に関する第6の書簡」を掲載します。

総理事会と常に合意のうえで作成されるこれらの書簡が、

養成プロセスに励ましと重要な強調を提供できることを願っています

書簡をダウンロードする：
[Italiano](#) - [English](#) - [Español](#)

News from the Entities



インドネシアにおけるFCAO集会

2026年6月29～7月3日、アジア・オセアニア諸管区協議会



WWW.OFM.ORG

2026年6月29日から7月3日にかけて、インドネシアのボゴールにおいて、アジア・オセアニア地域フランシスカン諸管区協議会の総会が開催された。この総会には、管区長、分管区長、宣教地区長、諸管区協議会秘書、東アジア諸管区協議会の代表、南アジアおよびオーストラリア・オセアニア諸管区協議会の代表らが集まった。これは祈り、対話、識別の優れた機会であった。開催期間中、当地域のフランシスカンの責任者たちは、それぞれの管区・分管区等の活動について省察し、両大陸における本会の使命のための共通の優先事項を特定した。

総会は、アジア・オセアニア地域の諸管区協議会担当の総理事の兄弟John Wongが司式する聖ペトロと聖パウロの祭日のミサで始まった。兄弟Johnは、説教のなかで、二人の使徒のあかしについて考察しながら、参加者に対して、真のフランシスカンのリーダーシップはキリストとの生きた関係に根ざしていること、またそれは、貧しい人々や被造物の保全を優先しながら、勇気ある宣教のあかしを通して表現されるものであることを強調した。

その後、インドネシアの大天使聖ミカエル管区の管区長の兄弟Agustinus Ngameは、開催管区を代表して総会参加者たちを歓迎した。一方、副総長の兄弟Ignacio Cejaは、総長の兄弟Massimo Fusarelliからのあいさつを伝えた。兄弟Ignacioは、兄弟性が重要であることを強調し、総会で「私たちの会合の第一の実りは、私たちが互いに出会い、ともに時間を過ごし、経

験を分かち合うことにあります」と述べ、この数日間を真の傾聴と対話と新たな交わりの時間とするよう参加者たちに勧めた。

南アジアおよびオーストラリア・オセアニア諸管区協議会会長で、聖アントニウス分管区（マレーシア・シンガポール・ブルネイ）の分管区長でもある兄弟Derrick Yapは、この会合の目標を発表した。それは、それぞれの管区・分管区等の活動や使命を精査するだけでなく、共通の優先事項を特定し、アジア・オセアニア地域フランシスカン諸管区協議会全体における協力関係を強化するための決議を行なうことである。

各管区、分管区、宣教地区からの報告は、アジアおよびオセアニア地域におけるフランシスカンの活動の活力と課題の両方を浮き彫りにした。参加者たちは、召命、養成、教育、小教区司牧、宣教活動、広報、正義と平和・被造物の保全の分野における発展を分かち合うとともに、共同の養成プログラム、宣教協力、兄弟たちやリソースの分かち合いを通して、新たな協力の機会を模索した。

東アジア諸管区協議会秘書の兄弟Angelito Andig Cortezは、2024年のアジア・オセアニア地域フランシスカン諸管区協議会決議の実施に関して、同諸管区協議会のウェブサイトおよびFacebookの統一ページの開発についての最新の状況を報告した。この取り組みは、コミュニケーションの強化、情報共有を円滑にし、諸管区



協議会に属するすべての管区・分管区の間のある連携を促進することを目的としている。

福音宣教総アニメーターの兄弟Dennis Tayoは、本会の宣教の優先事項について分かち合った。一方、兄弟Gerald Terence Saimelは、「トゥテラ・アジア (Tutela Asia)」を紹介した。これは、すべてのフランシスカン奉仕職において、配慮の文化、責任、安全な環境を推進することを目的とした、アジア地域の未成年者と弱い立場におかれている成人の保護のネットワークである。

総本部正義と平和・被造物の保全担当室の副室長の兄弟Taucen Girsangは、「2026年ジャカルタ宣言」および「平和と総合的エコロジーのためのフランシスカンネットワーク」について発表し、地域全体における正義と平和、人間の尊厳、被造物の保全の推進において、より緊密な協力を模索するよう呼びかけた。一方、東アジア諸管区協議会の養成・学問事務局長の兄弟Judee Mar Maquinadは、生涯養成、多文化共同体、リーダーシップの育成、養成担当者の交流を通して、フランシスカンの養成を強化していくことの重要性を強調した。

総会は、その後数日間、2027年の総集会の準備について集中的に話し合った。また、同じ2027年に韓国のソウルで開催されるワールドユースデーに関する最新情報も聞いた。兄弟Lino Gregorio Redobladoは、自ら司式したミサの中で、「キリストが舟に乗っておられる限り、嵐が最終的決定権をもつことは決してありません」と述べ、信仰と希望と福音的責務によって現代の課題に立ち向かうよう皆に呼びかけた。

参加者たちはまた、インドネシアにおけるフランシスカンの活動を肌で感じる機会も得た。一行は、チアンジュールの聖ペトロ小教区、クララ会修道院、チパナスの諸天使の聖母小教区、聖ヨセフ孤児院を訪問した。孤児院では、聖フランシスコの帰天800周年を記念して、兄弟John Wongがアシジの貧者の新しい像と記念庭園を祝別した。

総会は、感謝と兄弟性、そしてフランシスカンの使命に対する新たな責務の雰囲気の中で幕を閉じた。最終日は、兄弟Derrick Yap (OFM) が司式するミサで始まった。兄弟Derrickは、使徒聖トマスから着想を得て、「宣教する観想的兄弟性」に根ざし続けながら、疑いから勇気あるあかしへと移行するよう兄弟たちに呼びかけた。また、代表者たちは、兄弟John Wong (OFM) の60歳の誕生日をはじめ、その他の兄弟たちの誕生日や誓願宣立記念日など、フランシスカンの生活における重要な瞬間を祝った。

アジア・オセアニア地域フランシスカン諸管区協議会は、兄弟John Wong、兄弟Lino Gregorio Redoblado、兄弟Derrick Yap、ホスト諸管区協議会の南アジアおよびオーストラリア・オセアニア諸管区協議会、兄弟Agustinus Ngameとインドネシア管区、チロトのカーサ・モンテ・ローサのコミュニティ、そして秘書および広報チームに対して、貴重な奉仕への深い感謝を表明した。兄弟たちはいま、交わりを深め、希望と平和と喜びのうちに福音を告知し続けるよう召された者として、それぞれの共同体へと戻っていった。

CEM（南ヨーロッパ諸管区協議会） 福音宣教事務局長会議 2026年6月26日～29日、タラント



WWW.OFM.ORG

2026年6月26日から29日まで、タラント（イタリア）の聖パスクアル・バイロン修道院において、「南ヨーロッパ協議会（CEM）福音宣教事務局長会議」が開催されました。この集いは、世俗化、新しい貧困、そして希望の広範な模索によって特徴づけられるヨーロッパと地中海の文脈における、福音宣教の使命の将来についての比較、研修、および識別の重要な機会となった。宣教活動を刷新するための特権的道は、小さき兄弟会の各管区間の協力と、経験の共有の中に見出された。

特に意義深かった瞬間は、2023年にタラント修道院において公式に誕生し、教皇庁立アントニアヌム大学（PUA）との協力のもとで進められている、地中海の総合生態学のためのフランシスカン・プロジェクト「オイコス・メディテラネオ（Oikos Mediterraneo）」に捧げられた。オイコスは、研究、研修、地域のケア、社会的促進、および宗教間対話の具体的プロセスからなり、若者、研究者、教員、兄弟たち、そしてクララ会修道女たちを巻き込んでいた。



オイコス・メディテラネオの会長である兄弟 Francesco Zecca、副会長でありPUA開発オフィスの責任者であるパオロ・カンチェッリ（Paolo Cancelli）、オイコスの歩みに従事している環境エンジニアのピエルパスクアーレ・アントナンテ（Pierpasquale Antonante）、およびオイコス理事会の兄弟 Gabriele Graniello による報告のおかげで、参加者たちは、新しい司牧の歩みの奉仕におけるオイコスのモデルに従い、福音宣教のパラダイムとしての総合生態学の価値を深めた。

また、CEM評議会の委託長であり大天使聖ミカエル管区長である兄弟 Nicola Violante、および協議会の宣教・福音宣教書記である兄弟 Matteo Brena がファシリテートしたワークショップにも広いスペースが割かれました。比較は、管区および協議会の書記局の再組織化プロセスに関するものであり、各管区の『生活と宣教のプロジェクト』の促進における調整、司牧アニメーション、および管区統治部への支援の役割を深めた。

総会はまた、会の新しい『福音宣教比率（Ratio Evangelizationis）』を深め、それが協議会の様々な管区においてどのように受け入れられ、実装され得るかについて問い直した。内省は、共同体の生活と福音宣教のプロジェクトにおいて宣教の次元をますます効果的に統合するために、この文書が提供する機会に焦点を当てた。

集会の終了にあたり、参加者たちは共通の歩みを続ける願いを表明し、新しい協議会の成長を支え、地中海の課題に対して福音的答えを提供できるプロジェクトのラインを特定した。断片化、紛争、そして希望の喪失によって特徴づけられる文脈において、総会は、福音宣教が何よりも傾聴、交わり、そして共通の家のケアのプロセスを通して形をとるという意識のもとで、福音の宣教、兄弟愛の証し、そしてすべての人の尊厳への奉仕として福音の宣教を生きるコミットメントを刷新した。

CEM福音宣教事務局長会議による寄稿

スーダンおよび南スーダンの 聖フランシスコ宣教地区への訪問

ジュバとワウの都市において、フランシスカンの現存は成長し続けている



WWW.OFM.ORG



6月17日から27日まで、アフリカ協議会担当の総理事である兄弟 Sipehelele Gwanisheni、小さき兄弟会フラテルニタス財団との関係のための総書記代理である兄弟Baptist D' Souza、および小さき兄弟会フラテルニタス財団の兄弟 Gil Noriega が、スーダンおよび南スーダンの「聖フランシスコ宣教地区」の兄弟たちを訪問した。10日間にわたり、宣教における兄弟たちの生活や、人々のための司牧および社会的包摂の分野で推進されている活動を間近で視察した。

兄弟 Sipehelele は、聖フランシスコ宣教地区の会長である兄弟 Federico Gandolfi と共に、6月24日から26日までジュバで開催され、すべての宣教師が参加した総会（アセンブレア）を司式した。

兄弟Baptist と兄弟 Gil は、兄弟 Federico の案内のもと、ワウとジュバの都市で進行中のフランシスカンの現存とプロジェクトを訪問した。

首都ジュバから北西に約650km離れたワウでは、兄弟 Baptist と兄弟 Gil が、森のただ中で建設中の兄弟たちの

ための修道院と、完成すれば小教区の活動に使用される予定の修道院に隣接する小さな建物を訪問した。

聖フランシスコ宣教地区はまた、個人からの寄付や小さき兄弟会フラテルニタス財団の支援により、飲料水のための井戸の修理にも取り組んでいます。

兄弟Gil と兄弟Baptist はその後ハンセン病療養所へと向かい、そこでは召命受け入れ中の若者たちが、病者たちのための食事を準備するなど、援助のボランティア奉仕を行っていました。

ワウから彼らはジュバへと移動し、そこでは以前は泥で建てられ、現在は完全に再建された「至聖なる三位一体小教区」を訪問した。

その後、彼らは兄弟たちが奉仕している5つの村に到着した。これらは小教区から最大75km離れており、住民から喜びをもって迎えられ、彼らは難民や国内避難民のキャンプへと向かいました。そこでは子どもたちが平日に学校に通う一方、日曜日には、葦の壁で建てられた同じテントが主日のミサを収容していま

す。

聖フランシスコ宣教地区はまた、7歳から20歳までの少女や少年たちのための無料の教育・スポーツの歩みを考案した。こうして、学校の休暇中に活動する3週間のキャンプ「フード・フォー・キャンプ (Food for Camp)」が誕生し、若者たちはスポーツを楽しみ、1日に2回の食事を無料で受け取り、地元の異なる部族の同世代の若者たちと接触する機会を持つことができます。「フード・フォー・キャンプ」プログラムから恩恵を受けているのは、対象者だけではありません。

若者たちをトレーニングするインストラクターたちは、受け取った給与のおかげで年間の大学授業料を支払うことができる大学生たちです。

兄弟Baptist と兄弟 Gil が視察できたもう一つのプロジェクトは「PGP (Peace and Good People)」であり、ここでは地元の若いボランティアたちが、路上で暮らす同世代の若者たちに基本的医療ケアや日用品を提供しています。

訪問の終了にあたり、兄弟たちは南スーダン人の6名の有期誓願の兄弟たちの誓願更新に立ち会うことができ、これは同国におけるフランシスカンの召命の成長の具体的証しとなりました。

こうして兄弟Sipehelele、兄弟Baptist、および兄弟 Gil は、受けたおもてなしに感謝し、小さき兄弟会フラテルニタス財団を通じてプロジェクトと宣教の生活を支援し続けるコミットメントを抱いてローマへと帰還した。

LIFE in the Order



莊嚴誓願

・7月6日、聖ペトロ・パウティスタ管区(フィリピン)

兄弟 Mark Jude Del Rosario

・6月13日、使徒聖トマス管区(インド)

兄弟 Gins Francis (Joseph) Azheecal

兄弟 Kishor Joseph (Joseph) Panach-ickaparayil

兄弟 Maria Nithin Xavier Xavier

・5月8日、神の母聖マリア分管区(インド)

兄弟 Ravitkumar Tirkey Tirkey



司祭叙階

7月1日、聖なる12使徒管区 (ペルー)

兄弟 David Alberca Bermeo、

兄弟 Eduardo (Eduardo Antonio) Quevedo Delgado

7月1、日聖なる救い主管区 (スロバキア)

兄弟 Lukáš Mária (Vincent) Buhla

7月1日、聖フニペロ・セラ管区 (メキシコ)

兄弟 Luis Roberto Cisneros Reveles、

兄弟 Eduardo Javier González Quezada

7月1日、聖地 (テラ・サンタ)

兄弟 Mervyn Gladstone Gomez、

兄弟 Mátyás (Mátyás-László) Tarsoly

7月1日、聖フランシスコ・聖ジェームズ管区 (メキシコ)

兄弟 Germán González González、

兄弟 Mario Hernández Negrete

7月1日、天使の聖マリア管区 (コンゴ民主共和国)

兄弟 Alphonse Katende Kwete、兄弟 Freddy Safari Muhigirwa

7月1日：セラフィムの聖フランシスコ管区 (

イタリア)

兄弟 Simone Lunedei、

兄弟 Francesco Maria (Francesco) Sorice

7月1日、聖ジェローム管区分区(クロアチア)

兄弟 Antonio Gospić

7月1日、聖キリル・メトディオス管区 (クロアチア)

兄弟 Andrej Jozić



帰天された兄弟たち

† 6月29日：兄弟Claudio Alberto Pumarino Guzmán、

至聖なる三位一体管区 (チリ)

† 26月27日：兄弟Otto (Josef)

Unterasinger、

聖レオポルト管区(オーストリアーイタリア)

† 6月24日：兄弟Agostino (Mario Felice)

Campanozzi、

聖ミカエル管区 (イタリア)

† 6月21日：兄弟Lawrence (Soojong) Park、韓国聖殉教者管区 (韓国)

† 4月7日：兄弟Anésio (Rafael) Gomes da Silva、

聖アントニウス管区 (ブラジル)

総事務局からの情報



ベネズエラの兄弟たちに対する寄り添いと支援を

兄弟たちと地震の被災者たちを
支援するための募金が始まる



WWW.OFM.ORG



先月6月24日にベネズエラを襲った恐ろしい地震は、フランシスカン無原罪の御宿り分管区の小さき兄弟たちにも大きな影響を及ぼしている。分管区長の兄弟Antonio Reyesは、兄弟たちの間に死傷者は出なかったものの、同国の地震に見舞われた地域で起きている劇的状況と同じく、フランシスカンの施設にも甚大な物的被害が生じていると報告している。

兄弟Antonioは、「私は、すべての兄弟たちと連絡を取りました。神様のおかげで兄弟たちは皆無事であり、人的被害はまったくありませんでした」と本会総本部に伝えた。総本部は、寄り添いの気持ちを表示するとともに、状況の深刻さを把握するために、直ちに同分管区の兄弟たちと連絡を取った。

カラカスにある修道院と王であるキリスト

教会は被害を受けたが、現在の優先事項は生存者や負傷者に対する支援である。兄弟たちは、地震の被害を受けた市民のために休むことなく尽力している。「時間が経つにつれて、事態の深刻さが分かってきました」と、分管区長は続けた。「私

たちには、あらゆる意味で、こうした事態に対する備えがありませんでした。適切な機材や専門の人材が不足しており、救援活動はきわめて不安定で、手探りの状況です。多くの人たちが、携帯電話の明かりを頼りに、素手で救援活動を行なっています。



強い余震が頻繁に起きています。余震はいまも止んでいません。しかし私たちは、このような困難な状況のなかでも、神を信頼し続け、神の御手に身を委ねながら、希望をもって歩み続けています」

Subscribe

Write us

Web

Follow us



Newsletter



comgen@ofm.org



www.ofm.org



@ofmorg



@fratrumminorum



@ofm.org



flickr

Curia Generale dei Frati Minori
Via di S. Maria Mediatrix, 25
Roma, Italia

Director: Br Byron A. Chamann Anléu OFM
Translators: Br. John Luke OFM, Br. Arthur Andersen OFM

OFM
Ordo Fratrum Minorum
© 2026 All rights reserved